The Japanese Society for Planetary Sciences

JSPS Information

◇日本惑星科学会第14回総会議案書

◇第36回運営委員会議事録

◇特別セッション報告書

◇日本惑星科学会第14回総会議案書

日時：2000年11月1日（日）　16：00～17：00

場所：日本惑星科学会 秋季講演会 会場　（工業技術院筑波研究センター 共用講堂）

議事次第

1. 開会宣言
2. 議長団選出
3. 議事
   - 3.1. 第5期下期収支の中間報告
     - 財務専門委員会報告……渡邊財務専門委員長
   - 3.2. 第6期上期予算編成・執行方針
     - 予算ガイドライン……渡邊財務専門委員長
     - 質疑応答及び討論
     - 採決
4. その他
5. 議長団解任
6. 閉会宣言

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

議案書

1. 第5期下期(2000年度)収支の中間報告（財務専門委員会）

概要　10月10日現在での収支中間報告である．おおむね予算どおりに執行されている．収入の部では正会員（一般+学生）会費の納入率がやや悪いようなので，学会員のご協力をお願いしたい．支出の部では，これから年度末にかけて，例年の支出項目に加えて，名簿の発刊，会長・役員選挙などでの出費の予定もある．

第5期下期(2000年度)中間収支報告書　(2000年1月1日～2000年10月10日)

I　収入の部　(単位: 円)

科　目	予算額	執行額	備　考
会費収入	**3,846,000**	**3,367,450**	
一般会費収入	3,037,500	2,338,450	会費値上げ7,500円
学生会費収入	585,000	327,000	会費値上げ5,000円
賛助会費収入	450,000	400,000	
滞納分納入	211,000	302,000	422,000円のうち
当期分未収会費	△437,500	–	
学会誌出版事業費収入	**80,000**	**36,760**	遊・星・人
講読料	80,000	36,760	個人・機関講読
広告料	0	0	
秋季講演会事業収入	**245,000**	**0**	筑波
予稿集頒布収入	100,000	0	1000円／冊
参加費	145,000	0	1500円/学生1000円
雑収入	0	0	
寄付金収入	**0**	**0**	
雑収入	**151,000**	**65,092**	
受取利息	1,000	771	
その他の収入	150,000	64,321	学情入力等
当期収入合計 (A)	**4,322,000**	**3,469,302**	
前期繰越収支差額	**1,526,371**	**1,526,371**	
収入合計 (B)	**5,848,371**	**4,995,673**	

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

II 支出の部 (単位: 円)

科　目	予算額	執行額	備　考
学会誌出版・広報事業費	**2,279,000**	**1,198,758**	遊・星・人
印刷製本費	1,500,000	829,500	4回分・表紙
送料運搬費	180,000	103,840	著者分送料含まず
保管料	19,000	0	保管:委託事務
事務委託費	30,000	14,720	手数料:委託事務
備品費	250,000	250,698	ネットワークサーバ
諸謝金	300,000	0	サーバ管理
講演会事業費	**495,000**	**11,000**	
合同大会共催事業費	95,000	11,000	
送料運搬費	*85,000*	*0*	
会場費	*10,000*	*11,000*	運営委・総会会場
秋季講演会事業費	300,000	0	筑波
予稿集印刷費	*120,000*	*0*	
会場費	*0*	*0*	無料
消耗品費	*50,000*	*0*	受付用品他
諸謝金	*120,000*	*0*	学会受付者謝金含む
雑費	*10,000*	*0*	
夏の学校補助金	100,000	0	
管理費(委託事務関連)	**1,280,000**	**515,576**	学会事務センター
業務委託費	980,000	399,000	名簿作成分含む
送料運搬費	260,000	100,000	
ニュースレター送料	*180,000*	*41,120*	選挙公報・名簿
その他送料	*80,000*	*58,880*	会費請求
雑費	40,000	16,576	コピー・通信
管理費(事務局関連費)	**510,000**	**53,550**	
通信費	0	0	専用電話廃止
送料運搬費	32,000	0	会誌著者分他
消耗品費	30,000	0	ファイル他
印刷製本費	280,000	49,980	集録・名簿印刷
諸謝金	80,000	0	会長業務補佐
諸手数料	8,000	3,570	振込手数料
負担金	80,000	0	ドメイン取得料
雑費	0	0	
予備費	**1,284,371**	**0**	
当期支出合計 (C)	**5,848,371**	**1,778,884**	
当期収支差額 ($A-C$)	**△1,526,371**	**1,690,418**	
次期繰越収支差額 ($B-C$)	**0**	**3,216,789**	

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

2. 第6期上期(2001年度)予算編成・執行方針 (財務専門委員会)

概要 来年は，総会開催が合同大会時の6月となる予定のため，予算執行上問題が生じる．一方，現時点での詳細な予算案作成は不確定要素が多く困難である．そこで，例年同様，来年度予算ガイドラインを審議・承認いただきたい．

第6期上期(2001年度)予算ガイドライン(案)(2001年1月1日〜12月31日)

I 収入の部 (単位: 円)

科目	予算額	前年度予算額	備考
会費収入	3,600,000	3,846,000	
学会誌出版事業収入	80,000	80,000	機関講読分
秋季講演会事業収入	250,000	245,000	予稿集・参加費
寄付金収入	0	0	
雑収入	150,000	151,000	利息・学情入力
当期収入合計 (A)	4,080,000	4,322,000	
前期繰越収支差額	1,280,000	1,526,371	
収入合計 (B)	5,360,000	5,848,371	

II 支出の部 (単位: 円)

科目	予算額	前年度予算額	備考
学会誌出版事業費	2,150,000	2,279,000	含むサーバ関連
講演会事業費	600,000	495,000	春・秋
管理費 (委託事務関連)	1,200,000	1,280,000	学会事務センター
管理費 (事務局関連)	250,000	510,000	
予備費	1,160,000	1,284,371	
当期支出合計 (C)	5,360,000	5,848,371	
当期収支差額 ($A-C$)	△1,280,000	△1,526,371	
次期繰越収支差額 ($B-C$)	0	0	

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

◇第36回運営委員会議事録

日本惑星科学会第36回（書面による）運営委員会議事録

日　時：10月10日（火）～10月13日（金）

出演者：村江，山本，林，渡邊，田近，倉本，阿部，大谷，比屋根，香内，高木，佐々木，渡部，並木，福岡，壇内，藤原，水谷，中澤，向井，井田，中村，土'山

期間内に議決返信のあった者を出席とみなした．

議題：

1. 日本惑星科学会第6期役員等選出のための選挙管理委員会の設置

日本惑星科学会第6期役員等選出のための選挙管理委員会を下記のように設置することが承認された．

委員長：香内　晃（北大・低温研）

委　員：福岡孝昭（立正大・地球環境）

倉本　圭（北大・理）

林　祥介（北大・理）

荒川政彦（北大・低温研）

◇特別セッション報告書

将来惑星探査検討グループ

並木則行：nori@geo.kyushu-u.ac.jp

向井正　：mukai@kobe-u.ac.jp

春山純一：Haruyama.Junichi@nasda.go.jp

矢野創　：yano@planeta.sci.isas.ac.jp

中村良介：ryo@eorc.nasda.go.jp

特別セッション企画の背景

小惑星からのサンプルリターンを目指すMUSES-C計画、並びに、宇宙科学研究所と宇宙開発事業団が共同で開発中の大型月探査 SELENE計画は日本の惑星探査観測機器の開発形態を大きく変化させようとしている。従来はISAS、あるいはNASDAという探査の実行機関が観測機器開発の任を担ってきたが、MUSES-C計画におけるサンプル分析の分担、あるいはSELENE計画にみられる探査機の大型化は、ISAS/NASDA『外』の大学・研究所からの積極的な探査計画の企画・立案、観測機器開発を要請している。

昨年来のH-II、M-Vロケットの相次ぐ打ち上げ失敗から、ISAS/NASDAを中心とする研究開発体制は大きく揺らいでいる。従って、学会による自主的な支援体制の模索が現在必要である。また一方で、今後5年間での探査計画スケジュールと照らし合わせると、こうした要請に応えるための支援体制づくりは惑星科学会の急務である。

シンポジウムの概要

上記のような観点から、去る平成12年11月2日に秋季講演会において特別シンポジウム「将来惑星探査への提案」が開催された。現在、実際に機器開発や探査計画立案に取り組んでいる若手研究者の基調講演に続いて行われたディスカッションでは、

(1) 探査計画の立案・機器開発においては「第一級の科学目標と高い独創性」および「実現性」の両立が極めて困難である

(2) この難点を克服するためには、学会の枠組みを超えて、異なる研究分野、異なるサイエンスの接点を捜す努力が重要である

(3) さらには、国内外における探査計画の情報収集と各観測グループによる活動内容の公開が非常に有用である

NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Planetary Sciences

(4) ところが、現状では開発中の研究に対して経費が配分されないために、ISAS/NASDA外の大学・研究所における基礎研究が促進されないことが熱心に議論された。

今後の方針

第一に、上記 (1) および (2) の点について、具体的な問題点を浮き彫りにするために、機器開発のための研究会開催を本WGとして積極的に応援したい。現在検討・開発の初期段階にある計画はどうやら、(イ)「第一級の科学目標と高い独創性」を備えているが、搭載機器としての「実現性」検討が尚不十分な提案、(ロ)「実現性」が高く評価されているにも関わらず、「科学目標」の定量的な評価が要求される提案、の2タイプに分かれるようである。それぞれの機器開発グループと本WGが協力して研究会・検討会を主催し、一年後を目処に報告書の作成と支援体制づくりの提言をとりまとめる。

第二に、上の (3) について、情報の収集と公開を促進する。情報の収集は本 WGからインタビュアーを依頼し、遊星人に探査計画のインタビュー記事を掲載する。記事は同時に惑星科学会のサーバ上で閲覧可能とする。また、宇宙機搭載実績の浅い大学・研究所での観測機器開発を支援するために、NASDA/ISASからの講師派遣の仲介を検討している。ただし、これらの方策の具体的な手順についてはWGとしてさらに議論を重ねる必要がある。

第三に、上記 (2) として各機器開発グループが強調するように、観測機器開発のためには学会横断的な協力・支援が不可欠である。本WGの活動は必ずしも学会単位での協力関係を必要とはしないが、惑星科学会という研究組織を核として学際的な支援体制づくりを目指す。

NII-Electronic Library Service